

第3回 夢・未来 たからづか創生本部 本部会議議事録

日時：平成27年11月30日（月）17：30～19：00

場所：3-3 会議室

【次第】

1. 開会
2. 議事
 - 議題1 策定スケジュールについて
 - 議事2 人口ビジョン素案の検討について
 - 議事3 総合戦略素案の検討
3. その他
4. 閉会

【配布資料】

- ・策定スケジュール（資料1）
- ・宝塚市人口ビジョン（案）（資料2）
- ・総合戦略素案概要（資料3）
- ・総合戦略素案（資料4）

【出席者】※順不同

中川市長、井上副市長、上江洲理事、福永企画経営部部長、井ノ上都市整備部部長、小坂子ども未来部部長、山本産業文化部部長、石橋消防本部消防長、岩城上下水道局局長、須貝教育長、中島技監、中西市民交流部部長、坂井都市安全部部長、山中危機管理監、川窪健康福祉部部長、酒井環境部部長、和田管理部部長、五十嵐学校教育部部長、大西社会教育部部長

【協議録】

（1）議題1 策定スケジュールについて

事務局 （資料1に基づいて、策定スケジュールについて説明）

この後、12月4日の有識者会議、12月11日の庁内検討会でパブリックコメント案について検討し、12月15日の次回本部会議でパブリックコメント案の確定、21日都市経営会議で承認を受けて、来年1月からパブリックコメントを実施する予定である。

（2）議題2、3 人口ビジョン素案、総合戦略素案の検討について

小坂部長：資料4 総合戦略素案のP5基本目標「子どもと子育てにやさしいまち」のKPIで、年少人口の数値目標を掲げているが、P9以降の具体的施策では子育てに係る目新しい施策が挙げられておらず、本当にH26度実績が維持できるのか、担当課としては厳しいと思う。説明は担当課に求められると思われ、心配である。主な事業として記載しているのは、既存施策のみであり、何をもって対応できるのかと考える。

中川市長：既存施策を膨らませていくといった考え方で良いのではないか。

小坂部長：そういった考えで良いのであれば構わない。

事務局：この数値は総合計画でも明示されており、総合戦略で新たな数値を掲げることはできない。主な事業には掲げていなくても、文章のなかで示されており、またここで記載しているものがすべてではないと考えている。

山本部長：総合戦略の、2. 目指すべき将来の方向と3. 基本目標について、内容が重複していて、同じよ

うな表現が使われており違いがわかりにくい。またどちらも語尾が「めざします」となっていて区別がしにくいと考えている。目指すべき将来方向は、表記を簡潔にするほか、基本目標については前段のリード文を無くしたほうが、目標が明確になるのではないかと。

事務局：目指すべき将来の方向は、総合計画にも同様の記載があり、有識者会議でも市の特徴をしっかりと強調すべきという意見があった。人口増加を目指すため、1つ目は定住人口の増加、2つ目は有識者からも意見が多かった交流人口を増加させ定住につなげること、3つ目が住み続けてもらえるまちに魅力を高めさらに転入を呼び込むといった、考え方を整理している。基本目標1で子育てについて記載しているが、将来の方向では1番目の「住みたい」や3番目の「住み続けたい」で記載しているように、将来の方向と基本目標は必ずしも一致していない。

中川市長：たしかに語尾がどちらも「めざします」となっているのは検討すること。

山中危機管理監：細かいことであるが、資料2の人口ビジョンについて、P6の2段目の「第2ブロックから第7ブロック」とあるが「第2ブロックから第6ブロック」の誤りではないか。P7で「母の年齢階層別出生率」をあるが、「母」は「女性」の方が良いのではないかと。またP27の「住み続けたい」の1段目で、平成27年の後に西暦表記が付いていない。

資料1のスケジュールについて、1月の「⑧パブコメの実施」は、段が1つ下ではないかと。

中川市長：「母の年齢階層別出生率」は「女性」に変更すること。

福永部長：総合戦略で記載されている主な事業は、今後変更される可能性もあると思うが、PDCAサイクルで検証する中で、こうした部分も弾力的に変更されていくという理解で良いかと。

事務局：文章だけでは理解されにくい部分も多いと考え、主な事業として具体的な施策を提示している。今後、進行管理で見直していくなかで、変更や無くなっていくものもあると考える。

上江洲理事：人口ビジョンのP7⑥観光人口の動向に、主要観光地の観光入込客数が示されているが、あいあいパークに本当にそんなに多くの人 coming しているか疑問である。

事務局：これは市の統計書にも記載されている「兵庫県観光客動態調査報告書」の数値である。

山本部長：施設によって入込客数の数え方は異なっており、説明が必要と考える。あいあいパークは駐車場台数と山本駅の利用者の一部から数字を出している。

福永部長：兵庫県では姫路城の次に入込客数が多くなっていると聞いている。

坂井部長：KPIは5年後の目標数値を設定しているが、進行管理による見直しは何年ごとにするイメージを持っているのか。KPIについても、毎年、検証して見直していくのか。

事務局：総合計画の施策評価における事務事業評価と同様に実施するイメージで、検証、評価する中で足りない部分を追加し、新たに必要な内容を反映させていくように考えている。総合計画の施策評価と重複してしまう部分もあり、ばらばらにならないように、どう調整していけばよいか今後検討していく。

坂井部長：総合計画の施策評価とは別の組織で行うということか。

事務局：内容が総合計画と必ずしも一致しておらず、別の組織が必要と考えている。

坂井部長：今更であるが、「子どもにやさしい」はわかるが、「子育てにやさしい」はわかりにくい。

事務局：基本目標については、第2回で協議が終わっているということで了承いただきたい。

酒井部長：総合戦略のKPIで、市民アンケートを用いるものは表現を統一してほしい。また、これらの意向調査は毎年実施すると思わないが、どのように考えているのか。

事務局：総合計画のなかで意向調査を実施するものや、各担当部で実施する調査もあるので、調整したい。

石橋消防長：感想であるが、人口ビジョンのP17の観光動向を見て、宝塚ファミリーランドが無くなったことでずいぶん入込客数が減ったのだと感じた。しかしながら、それでも多くの観光客が訪れていて、十分魅力ある資源があるまちだということがわかった。

資料3の総合戦略の体系をみると、「子どもと子育てにやさしい「まち」」と「健康で安心

して暮らせる、住みやすい「まち」はどこのまちでも言えることだと思うが、「地域資源を生かした活力あるまち」は、宝塚市の特徴でもあり大切である。とくに「(2)地域における産業振興と雇用の促進」は重要で、産業が振興されれば地域も活性化し、それが本当の地域創生になると考えている。

川窪部長：人口ビジョンの P28 で「平成 72 年の本市の将来人口は、約 20 万人を確保することを目指します」とあるが、なぜそうなるのか説明が必要ではないか。宝塚市が活力あるまちになるため、財政が安定する、また全国の目標人口と同程度であるなどストーリー性が要るのではないか。

事務局：国や兵庫県 の想定している人口からも大きく外れていないほか、20 万人の人口を維持することが、現在のような宝塚市の活力を維持することになると考えている。

川窪部長：人口ビジョンの対象期間は平成 72 年までの長期計画であり、見直す必要が生じれば変更するといった記載が必要ではないか。そういった時にも、なぜ 20 万人かを記載していなければ分からなくなるのではないかと考える。

事務局：他都市でも県の目標値などの記載をしているところはなく、記載は難しいと思われる。活力の維持のためといった表記であればできるかもしれないが、検討したい。

坂井部長：人口ビジョンは市町村、都道府県、国の三層構造になっていると思うが、市町村が P D C A サイクルで進行管理する中で数値を見直した場合、県や国はどう調整するのか。

事務局：完全に整合はとれておらず、県、国が調整する必要はないと考えている。20 万人いけば、現在のような活力が維持できると思うが、仮に 18 万人でも活力あるまちでなくなるわけではないと考える。表記については検討したい。

中川市長：国も、将来の人口減少が見えている中、自然減はある程度仕方ないので、社会増でがんばってほしいという考えを持っている。子どもを増やすためには、増やすための施策が必要であると痛感している。先日出席した会議では、多子減免についての要望があった。

小坂部長：多子減免については、他都市で取り組まれている事例を参考に財源を考慮しながら、市民が魅力あると思う支援策を考えていきたい。

中川市長：周辺市町村で人を取り合うようなことは良くない。先日、市民の方と話したところ、3 番目を産むかどうかは子育て施策にかかっているとされていたほか、別の尼崎市から転入されてきたお母さんが、宝塚市は優しい人が多いと言われていた。広域的に協力していく中で、教育費などは国が面倒をみるなどの施策が必要であると考えている。

本日いただいたご意見をもとに、修正、付け加えを行っていただきたい。総合戦略の将来方向などは書きぶりを少し検討するとして、これで人口ビジョン、総合戦略を進めていくことを了承いただきたい。

事務局：次回、第 4 回は 12 月 15 日(火) 15:30~16:30 で開催する。通知は後日発送する。

以上